

2019年11月3日(日)

主 題:「耐え忍びなさい」(2)

—再臨とさばき—

テキスト:ヤコブの手紙5章9～11節

はじめに

- ・私たちはヤコブの手紙を順に学び、神のみ声を聞いてきました。
しかし、ヤコブの手紙からの礼拝説教が飛び飛びになっていましたので、今日は少し復習から入りたいと思います。
- ・ヤコブの手紙は、「行い」を強調する書簡と言われますが、著者ヤコブが強調していること、つまりこの手紙を通じて語りたいことは「へり下りなさい」(謙遜)であります。主の前で謙遜になるならば、自然に「行い」も伴ってくるものです。
- ・ヤコブの手紙の5章に入り、今回は「耐え忍びなさい」という主題で、主のみ声を聞きました。まず、忍耐と我慢は違います。我慢は自分の力で努力し、耐えることです。しかし忍耐は神に助けられ、励まされてできるものです。これは心打ち砕かれて、謙遜になって初めて可能となるものです。
- ・ヤコブがここで教えている「**主が来られる時まで耐え忍びなさい。**」は、我慢ではなく、神に助けられる忍耐のことです。イエス・キリストは、再び必ずこの地上に来られます(再臨)。その日まで、聖徒たちは忍耐をもって歩むことが勧められています。ヤコブは農夫の例を引いて、忍耐を働かせることの重要性を説明しました。
- ・聖書の地イスラエルでは、「秋の雨」(10月に降る「はじめの雨」と、「春の雨」(3月 or 4月に降る「後の雨」)は極めて重要です。作物は、こめの雨」と「後の雨」の間に実を実らせます。その雨は、神の主権の下にありますから、そたなければなりません。ですから、「**耐え忍び**」です。
- ・今日、私たちはヤコブが語ったその続きを学ぼう。2点



or 11月
4月に降
の「はじ
しかし、
の時を待
なさい。」
びましょ

大切なポイント**1. 忍耐は主が来られる時まで**

ここに前回の復習を短くまとめてみましょう。

1) イエスの再臨

- ・イエスの再臨は、なぜ強調されたのでしょうか。

① イエスが約束された**ヨハネ14章**

14:18 わたしは、あなたがたを捨てて孤児にはしません。あなたがたのところに戻って来ます。

- ・イエスは何度もご自分は十字架にかかり、その後復活し、父なる神のみもとに帰るが、もう一度この世に来ることを話されました。イエスを目の当たりに見た初期のクリスチャンたちは、そのことばを堅く信じていました。
- ・イエスの再臨は、なぜ強調されたのでしょうか。

② 後世に伝える必要があった

- ・イエスは群衆が見ている前で、オリーブ山から天に帰られました。それから、1年、2年、3年と、時が過ぎてゆくにしたがい、当然ながらイエスに直接お会いしたことのない人が増えていきました。そういう人々の中から、先輩たちはそう言うけれども、私たちにはピンとこないと言う人たちが出てきました。
- ・ですから、イエスがもう一度来られることが信じられないという人が現れば、使徒たちはなおさらイエスの再臨を強調し、書き留めようとしたと思います。
- ・イエスの再臨は、なぜ強調されたのでしょうか。

③ 迫害下の聖徒に慰め、励ましであった

- ・このヤコブの時代、クリスチャンに対する迫害がありました。今日のテキストで強調されていることは、「耐え忍びなさい」です。何を耐え忍ぶよう言われているかという、それは迫害という苦しみです。
- ・迫害の中にあつたからこそ、使徒たちは再臨のことを強調し、イエスにお会いできる慰めと励ましを語ったに違いないと思います。
- ・このように、イエスの再臨には少なくとも3つの理由がありました。
では、私たちは再臨をどう生きるべきでしょうか。

2) 再臨を受け止める理由

① 神の約束は変わらないからです。

- ・神が聖書に書かれてことは確かであり、一点も変わることはありません。再臨は神の大きなご計画と、約束の中に組み込まれています。すでに神のマスタープランに打ち込まれていますから、もう変更されることはないのです。

② 神は御心の中で、その時を計っておられるからです

聖書は次のように述べています。 **2ペテロ3章8～18節**

3:8 しかし、愛する人たち、あなたがたはこの一つのことを見落としてはいけません。

主の御前では、一日は千年のようであり、千年は一日のようです。

- ・「千年は1日のごとく、1日は千年のごとく」という有名なことばでが語られています。ある方は、もう2千年もたったしまった、という方もおられるでしょう。しかしこれは一つの表現であり、主の前では千年が1日びったりと当たるというものではありません。仮にそう考えるならば、主の前では2千年も2日のようだという事です。もう一点、大切なことがあります。

③ 世界の現実が聖書どおりに動いているからです

3:10 しかし、主の日は盗人のようにやって来ます。その日、天は大きな響きを立てて消え去り、天の万象は焼けて崩れ去り、地と地にある働きはなくなってしまう

す。2ペテロ

- これは今、時代ともに実現しつつあります。確かに科学は進歩しました。しかし人間は科学を過信し、また誤った用い方をした結果、ご存知のように爆弾が作られ、公害問題が生じてきました、みことばにあるようなことが現実的になってきていることを、私たちは心に留めておかねばなりません。
- もっとも顕著なしるしは、1948年パレスチナにイスラエル国が誕生したことです。ユダヤ人はAD70年、世界中に散らされてしまい、もう彼らも国ができるはずないと思われていました。それにもかかわらず、イスラエル国家再建が現実となった事実を、私たちは見落としてなりません。神は生きておられ、歴史に介入し歴史の鍵を握るお方であることを、忘れてはいけません。
- では、私たちはどうすれば、よいでしょうか……。そこで大切なことは聖書のみことばを信頼することです。
- 聖書は次のように勧めています。

2. 言葉の管理をすること

- 私たちが忍耐を働かせるべき分野のひとつは、「言葉の管理」です。
5:9 兄弟たち。互いにつぶやき合ってははいけません。さばかれなためです。見なさい。さばきの主が、戸口のところに立っておられます。

1) つぶやき合わないことです

- 確か、私が小学生低学年の頃、日本にテレビが入ってきた記憶があります。当時は、小さなボックスで動画が見えることに不思議な思いがしました。もちろん、まだ白黒テレビの時代でした。そしてその後に、カラーテレビが現われた時も驚きました（画質は今の時代のように美しくはなかった）。
- その頃は、電気洗濯機や車を個人で持つということは、夢のようなことでした。しかし、今は小さなスマホでテレビも見れますし、世界中の人たちと会話ができます。電気洗濯機もほとんどの家庭にはありますし、車も買おうと思えば手に入れることができる時代となりました。
- このように生活全般にわたって便利になりました。しかし、人々は昔より不平を言うことが多くなったように思います。政治、経済、日常生活すべてに対して満足できず、文句ばかり言います。それは自分の至らなさに対してではなく、他人の欠点に目を留めて言うのです。
- ヤコブは主のしもべたちの間では、そんな事があってはならないと忠告します。その理由は主の来臨が近いからです。
5:7 こういうわけですから、兄弟たち。主が来られる時まで耐え忍びなさい。見なさい。農夫は、大地の貴重な実りを、秋の雨や春の雨が降るまで、耐え忍んで待っています。
5:8 あなたがたも耐え忍びなさい。心を強くしなさい。主の来られるのが近いからです。
- ヤコブはここでは、「さばきの主が、戸口のところに立っておられます。」と言いました。キリスト者が、やがて主のさばきの前に立たされることを覚えるなら、互いに不満をぶつけ合うこともなくなります。

- つぶやきは外からよりも、内から来ます。ヤコブの時代の聖徒たちがそうでした。迫害の中であって、クリスチャン同士が互いにつぶやき合うようになっていました。内部から崩壊していく危険がありました。
- 私たちは、この豊かな生活の中で互いにつぶやき合うということが、もしあるとするならば、非常に気をつけなければならない問題です。私たちの目が、クリスチャン同士のこと、教会の内側にしか目が向かないとき、どうしてもそこにはつぶやき合いが出てきます。次につぶやき合ってはならない理由が書いてあります。
- 5:9 兄弟たち。互いにつぶやき合ってははいけません。さばかれたいからです。見なさい。さばきの主が、戸口のところに立っておられます。

つぶやき合っていると、私たちの教会はその点でさばかになります。私たちは互いのために赦し合い、祈り合い、と外に向けて、滅んでいく人たちのためにイエス・キリばらしい福音を携えて行かなければなりません。教会は向けて一致し、宣教のために、あるいは空腹の人たちの立ち上がっていかなくてはなりません。



れること
目をもつ
ストのす
外に目を
ために、

2) 主の御名によって語ることです。

- 5:10 苦難と忍耐については、兄弟たち、主の御名によって語った預言者たちを模範にしなさい。

「主の名によって語った」とは、「神の名によって語った」ということです。旧約聖書時代、イスラエルの預言者たちは、ほとんどと言ってもよいほど殺されました。しかし、彼らは苦難と迫害に会いましたが、上なる希望のゆえに忍耐しました。

- イエスも次のように言われました。マタイ
5:12 喜びなさい。喜びおどきなさい。天ではあなたがたの報いは大きいから。あなたがたより前にいた預言者たちを、人々はそのように迫害したのです。
- 最後にヤコブは、ヨブの忍耐を挙げています。

5:11 見なさい。耐え忍んだ人たちは幸いであると、私たちは考えます。あなたがたは、ヨブの忍耐のことを聞いています。また、主が彼になさったことの結末を見たのです。主は慈愛に富み、あわれみに満ちておられる方だということです。

- ヨブはイエス・キリスト以前の人でした。彼はキリストのために生きることはできませんでしたが、しかし、思いもかけない災難に会いました。ヨブ記
1:1 ウツの地にヨブという名の人があった。この人は潔白で正しく、神を恐れ、悪から遠ざかっていた。

- 彼は東の国一番の富豪でした。ヨブ 1 章
1:3 彼は羊七千頭、らくだ三千頭、牛五百くびき、雌ろば五百頭、それに非常に多くのしもべを持っていた。それでこの人は東の人々の中で一番の富豪であった。

しかし、彼は一夜にして全財産と 10 人の子どもすべてを失いました。

ヨブ記 1 章

- 1:13 ある日、彼の息子、娘たちが、一番上の兄の家で食事をしたり、ぶどう酒を飲ん

だりしていたとき、

- 1:14 使いがヨブのところに来て言った。「牛が耕し、そのそばで、ろばが草を食べていましたが、
- 1:15 シェバ人が襲いかかり、これを奪い、若い者たちを剣の刃で打ち殺しました。私ひとりだけがのがれて、お知らせするのです。」
- 1:16 この者がまだ話している間に、他のひとりが来て言った。「神の火が天から下り、羊と若い者たちを焼き尽くしました。私ひとりだけがのがれて、お知らせするのです。」
- 1:17 この者がまだ話している間に、また他のひとりが来て言った。「カルデヤ人が三組になって、らくだを襲い、これを奪い、若い者たちを剣の刃で打ち殺しました。私ひとりだけがのがれて、お知らせするのです。」
- 1:18 この者がまだ話している間に、また他のひとりが来て言った。「あなたのご子息や娘さんたちは一番上のお兄さんの家で、食事をしたりぶどう酒を飲んだりしておられました。
- 1:19 そこへ荒野のほうから大風が吹いて来て、家の四隅を打ち、それがお若い方々の上に倒れたので、みなさまは死なれました。私ひとりだけがのがれて、あなたにお知らせするのです。」

• それに加えて、頭のとっぺんから足の裏までひどい皮膚病にかかりました。

2:7 サタンは【主】の前から出て行き、ヨブの足の裏から頭の頂まで、悪性の腫物で彼を打った。

• そればかりではありません。ヨブの側にただ1人残った妻さえも、ヨブ向かって言いました。 **ヨブ2章**

2:9 すると彼の妻が彼に言った。「それでもなお、あなたは自分の誠実を堅く保つのですか。神をのろって死になさい。」

人生でこれほどの悲劇に遭う者は、めったにありません。それなのに、ヨブは神を呪うことはしませんでした。いいえ、彼は次のように言いました。

2:10 しかし、彼は彼女に言った。「あなたは愚かな女が言うようなことを言っている。私たちは幸いを神から受けるのだから、わざわいをも受けなければならないではないか。」ヨブはこのようになっても、罪を犯すようなことを口にしなかった。

• ヨブは自分の不幸、悲しみを「なぜですか」と神に訴えましたが、神を呪うことはありませんでした。神はこのヨブを祝福されました。 **ヨブ42章**

42:12 【主】はヨブの前の半生よりあとの半生をもっと祝福された。それで彼は羊一万四千頭、らくだ六千頭、牛一千くびき、雌ろば一千頭を持つことになった。

- ヨブの忍耐はよい模範です。ヨブは苦難の後に、肉体的、物質的的祝福を受けました。しかし、それ以上に幸いなことは、神を「慈愛に富み、あわれみに満ちておられるお方」として知ったことでした。私たちがまたヨブに忍耐を思い起こし、具体的な問題に立ち向かう力をいただきたいと思います。このように神のしもべたちは皆、忍耐しました。
- しかしながら、ヨブとは異なって、最後は祝福ではなく試練に遭ったしもべたちもいました。しかし、それでも最後まで信仰を持ち続けたのでした。その理由は、次の聖句にあります。 **ヘブル人への手紙**

11:16 しかし、事実、彼らは、さらにすぐれた故郷、すなわち天の故郷にあこがれていたのです。それゆえ、神は彼らの神と呼ばれることを恥となさいませんでした。事実、神は彼らのために都を用意しておられました。

- ・愛する皆さん。私たちはイエス・キリストを信じた日から、生きる目的が変わってしまいました。イエスを知らなかったころは、自分中心、家族中心に生きていました。しかし、クリスチャンは、だれよりもイエスに喜んでいただきたいと願いつつ、日々生きています。
- ・私たちは、イエス・キリストにあって、新しい世界に生きられるようになりました。それは旧約聖書時代の聖徒たち（ヨブも）が、望んでも与えられなかった大いなる喜びを与えられたのです。
- ・それはキリストが来られるまで、決して与えられなかった「キリストの血による罪の赦し」です。この恵みがあるゆえに、私たちはこの世の不条理、不公平などにもかかわらず、主を信じて忍耐することができるのです。パウロの告白どおりです。 **ピリピ人への手紙3章**

3:7 しかし、私にとって得であったこのようなものをみな、私はキリストのゆえに、損と思うようになりました。

3:8 それどころか、私の主であるキリスト・イエスを知っていることのすばらしさのゆえに、いっさいのことを損と思っています。私はキリストのためにすべてのものを捨てて、それらをちりあくとと思っています。

ま と め

主 題：「耐え忍びなさい」（2）

—再臨とさばき—

- ・今日、神は私たちの大切なことをお語りくださいました。イエス・キリスが再臨されることは、神の約束です。神のマスタープランの中に組み込まれています。そこで大切なことは、神のみことばに信頼することです。
 - ・何が大切でしょうか？ →「言葉の管理をすること」です。
 1. つぶやいてはいけません
 2. 主の御名によって、語ることです
 この2点が「言葉の管理をすること」です。
 - ・では、どうすれば、この2点を守ることが可能でしょうか？
それは、いつも主とともに歩むことです。日々、みことばの糧をいただくことです。主とともに歩むならば、この2点を守ることができます。
- * God bless you !